

生産能力倍増、生産性5割増を目指し インバータ新工場建設

当社は、好調に推移するインバータ事業の一層の拡大を目指し、グローバル生産体制の再構築を行います。その中核として、インバータ製品の更なる品質強化と生産性の向上を実現するために、新工場を建設します。

先日発表した V1000シリーズを初めとした、今後の新製品販売計画に合せて、より大幅な生産能力の増強が必要となります。新工場建設を含めた新生産体制（世界共通の生産方式とSCMに基づいた生産リードタイムの短縮）により、生産能力倍増（月産 25万台）、生産性5割増を目指します。

● 新工場の概要

着 工：2007年2月
操業開始：2007年7月予定
敷地面積：12,000m²（一部二階建て）
所在地：当社行橋事業所（福岡県行橋市西宮市2-13-1）

■お問合せ先：インバータ事業部 事業企画グループ
Tel: (0930) 25-2548 Fax: (0930) 25-3431

● 新工場の役割

新工場は、世界シェア20%を達成するための旗艦工場となり、米・欧・中に展開する海外生産拠点の新マザー工場として機能し、「品質」「生産性」向上のため世界共通の生産方式を実現する役割を担います。

● 新工場の特長

- 「フレキシブル自動組立ライン」による大量生産への対応
当社のロボット・FA機器をフルに活用し、各生産ラインをRFID*技術で連携した自動生産ライン
- 「進化形セルライン」による多品種少量生産への対応
当社のロボットによる定形作業の機械化と電子支援システムによる人手組立作業の効率化を実現する生産ライン

* Radio frequency identification（無線ICタグ）の略

▼新工場完成イメージ図



SEMICON Japan 2006 開催

2006年12月6日～8日の3日間、幕張メッセで開催された半導体製造装置の国際展示会「SEMICON Japan 2006」に出展しました。30周年を迎えた今回の展示会は、出展社数が1600社以上、来場者も10万人を超える規模となりました。当社ブースにも集客目標を上回る3652名のお客様にご来場いただき、併設した安川ブルックスオートメーションブースと合わせると4929名となる盛況ぶりでした。



高さ約6mもある
新形直動式ロボット
MOTOMAN-ECH2500D

会場風景

当社は、「安川電機が拓くメカトロ&ロボットの次世代ウェーブ」をテーマに、新形の直動式液晶搬送大形ロボット MOTOMAN-ECH2500D とリニア駆動大形アライメントステージによる第9世代サイズの液晶基板の搬送デモを中心に、FPD搬送用真空双腕ロボット RV800Dのデモや新コンセプトサーボ JUNMAシリーズのMECHATROLINK-II対応版、モーションコントローラMP2400、MP2300Sなどのアプリケーションレベルのデモなどを行い、多くの来場者の注目を集めました。

また、安川ブルックスオートメーションのブースでは、300mmウエハ搬送用モジュラーシステム SEMISTAR-Mシリーズの一例として、リニア駆動走行軸付き双腕クリーンロボットの高速搬送デモとソータシステムの展示・実演を行いました。

今回は、国内をはじめ、中国・韓国などの海外のお客様も多数で来場いただき、半導体用途だけでなく液晶用途においても、当社の総合力と高い技術力を国内外の多くのお客様にPRすることができたと思います。

■お問合せ先：ロボット事業部 事業企画部
TEL: 093-645-7703
<https://www.e-mechatronics.com/robot.htm>